

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校関係者評価書	学校関係者評価	
確かな学力	B	問題を見出し、解決するための思考力・判断力・表現力等を育成し、生涯にわたって学ぶ力を育てる	「理科する心」を育てる 理科教育の推進 問題解決に向けて意欲的に思考する授業づくり	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり	問題解決の過程(キャリア教育の視点)を重視した授業研究(理科・生活・算数)単元末思考力問題作成(理)	問題解決授業研究(理科3・算数2・生活1)の実施状況 単元末思考力問題集(理科版)の作成状況(+1単元)	○2学期までに生活科を残し全学年の授業研究を実施することができた。 ●3～6年理科思考力問題が計画どおり作成できた。	・さらなる学力向上・思考力向上に向けて、理科の授業改善を算数科に広げているので、話し合い名人の取組を活用しながら、様々な教科で問題解決型の授業づくりを進める。	イ、十分に改善されている。 ロ、理科の授業から他の教科の学習効果が出るような取組組みが出来ている。児童の授業における学習時間の確保など、一人ひとりの能力を考え細やかな心配りが感じられ確かな学力を付けさせようとする努力が見られる。のびのびとしっかり自分の意見が言えている。ノートコンテストなど学習意欲が持てるような工夫ができています。 ハ、忘れ物が多いこと。宿題をしてこない児童の多いことは今後の課題。よい意味で、近隣のよい実践校と連携してより高い目標に向けて頑張ってもらいたい。	S ・ A ・ B ・ C
				子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など)	理科ノートの手引きの活用と算数ノートの手引きの作成 理科日記から算数日記に広げ、論点を明確にした「書く」指導の徹底 ルーブリック評価を理科外に導入	学校評価アンケート「授業がわかる」肯定評価89.6 →92%以上 「発言できる」肯定評価78.2→80%以上 ノートコンテスト定期実施状況(年間3回以上)	○学校評価アンケート「授業がわかる」91.8%(+2.2) ●学校評価アンケート「発言できる」83.3%(+5.1) ●ノート人数7月と12月の比較では、18名→22名(+4名)	・理科に加えて算数科の授業スタンダードとノートの手引きを作成し、効果が認められてきているので、国語でもノートの有効な活用方法を児童と共通理解して取り組む。 ・ノートコンテストの基準を示して、お手本として活用する。		
				学校全体で予習・復習(宿題)の質と量を高める取組	家庭学習の手引きの活用 コンセプトマップづくりと予習の工夫 個別学習課題等の個に応じた工夫	通知表「生活のようす」で家庭学習できる評価児童が82.3%→85%以上	▲1学期の「家庭学習ができる」は72.6%、2学期は80%(+2.3) ●学校評価アンケートの「家で宿題や予習をしていますか」88.3%→94.1%(+5.8)	・各学年の家庭学習の内容を年度当初に共通理解する。 ・忘れ物点検カードなどを活用し、宿題忘れゼロを目指す。 ・上級生には予習につながる方策を検討する。		
豊かな心	B	他者や社会、自然環境と共に生きる豊かな心を育てる	「感謝」と「協力」の心育て 読書活動の推進 道徳授業の充実 よさを認め合う関係づくり	図書環境の整備と保護者連携 読書目標冊数調査と評価(全校貸し出し冊数一覧による冊数管理) 親子読書6月11月2月 道徳参観日の実施 「ありがとうカード」「ありがとうの手紙」の継続実施	読書目標冊数達成率が2学期末までに月平均が60%以上になる。 キャリア形成に係るアンケート結果5・6年「自分には良いところがある」58.6→60% 「自分を大切に思える」58.9→62% 「郷土への愛着」100%を目指す。	●読書目標冊数達成率全校平均値は4～11月で月平均59.3%→63%(+3.7) ●キャリア形成に関するアンケート結果で「自分にはよいところがある」5・6年平均が60.7%(+2.1) ●「自分を大切に思える」が64.4%(+5.5) ▲郷土への愛着92.9%(+7.1)	・図書委員会の活性化を図り、児童による読み聞かせやビブリオバトル等の新たな取組を模索する。 ・ありがとうカードの継続と、強化週間や児童活動などの取組を工夫し活性化を図る。 ・学校活動全般において、めあてを立て取組をふりかえることで、自尊感情を高める。 ・地域に出かけて学習し、地域の方々と交流する中で、地域の素晴らしさが実感できるようにする。	イ、十分に改善されている。 ロ、読書活動を通じて、豊かな人間性の向上や「ありがとうカード」等の活用による感謝の気持ちの育成や、友人間で互いに認め合い、自分や友人の個性や才能を伸ばすことができる育成が展開されている。 ハ、高学年になると鈍ってくる読書活動に対する対策を考える必要がある。取組みの分かりにくさを改善して、目標をより高く設定し実践してほしい。	S ・ A ・ B ・ C	
健やかな体	B	心身共に健康で、たくましく、安全に留意して意欲的に運動する力を育てる	体育授業の充実 運動習慣の確立	「体ほぐし運動」の授業研修 低・中・高合同授業で意欲化 体力づくりのための5分間ストレッチの導入 体育アンケートの作成と実施 習慣形成に向けた個に応じた指導の工夫	体力テスト総合点Dが減少する。 「立ち幅」「長座体前屈」が全国平均を超える。 運動習慣30分未満が全校で10%以下になる。 運動の有用性への意識が向上する。	体力テストと体育アンケートは2月実施予定 ○長座体前屈」と「立ち幅跳び」の7月の結果、「長座体前屈」が対5月比5.3cm、「立ち幅跳び」が対5月比14.2cmの向上が見られた。11月時点の達成率「長座体前屈」38%→71% 「立ち幅跳び」17%→58% ●運動の有用性は「体育をする」と体が丈夫になると思う」5月80.7%→10月86%(+5.3)	・運動場にラインテープを張るなどして運動環境を整える。 ・体力テストの内容項目のなかで、弱点2つに絞って、児童に弱点克服の意識を持たせながら、継続して取り組む。 ・体育集会で運動の楽しさを実感できる遊びを紹介したり、体育の授業の導入で「体力アップ75プログラム」で紹介された運動を取り入れる。 ・朝の会や帰りの会の中でストレッチや体ほぐしの運動を取り入れる。	イ、課題は改善されている。 ロ、朝のストレッチなどで、体を動かすことを意識的にを行い、体力向上、健康への取り組みが出来ている。毎日の積み重ねが体力テストの結果として少しずつ表れている。 ハ、今後も継続して体を動かす訓練の実施が望まれる。	S ・ A ・ B ・ C	
保護者地域との連携	A	信頼される開かれた学校づくり	保護者や地域とのつながりを確立する 学校教育への関心を高め、保護者の協力的な支持の風土を構築する	地域に情報発信を行い、地域と創るキャリア教育を進める 地域として隣接する高知工科大学や、龍河洞などの史跡を活用して新たな連携内容を開拓する コミュニティ・スクール推進委員会の設立と活用	学校の様子を学校だよりで地域に配布し、ホームページにアップする。学校だより年間30号を目標とする。 高知工科大学のボランティア受け入れや龍河洞ふるさとプログラムなどに主体的に取り組む。 コミュニティ・スクール推進委員会を学期ごとに開催し、推進委員会の意見を積極的に取り入れる。	●学校だよりは2学期末までに70号を数え、地域の方に情報発信ができた。 ●今年新たに高知工科大学のボランティアサークルのイベントに取り組んだ。(6月14日) ●コミュニティ・スクール推進委員会を立ち上げ、9月9日外部講師(大川小学校校長黒瀬忠行先生)を招いて学習会を行い、11月20日には京都市立御所南小学校へ研修視察を行った。(CS推進委員会を3回実施)	・片地家キャリア教育の視点を保護者・地域と共有しながら、学校と家庭・地域と連携して、子ども達の育ちに関わってもらえるように働きかける。 ・学校支援地域本部コーディネーターを積極的に運用し、学校づくりを進める。 ・H28年度コミュニティ・スクール開設に向けて、H27年度のプレスタートを目指す。その際、地域のボランティアを募り、連携を強めていく。	イ、全てにおいて、十分に改善されている。 ロ、地域の住民や団体が主体的に取り組む、大きな成果を上げています。学校だより80号間近。地域への情報発信が十分に出来ている。地域との繋がりが深く学校への大きな協力・支援が得られている。何と云っても、2団体が、文部科学大臣表彰を受けたことが、その活動・支援の大きさを物語っている。 ハ、今後とも根強い活動が期待できる。	S ・ A ・ B ・ C	
命を守る教育	A	命の大切さを知り、自らの健康を維持するとともに、自分の命を自分で守る手段と態度を身に付ける。	防災・安全教育の充実を図る 健康教育を推進する	避難訓練・防災学習の計画的な実施 高知県安全教育プログラムに基づいた授業の実施 生活リズムチェックカードの実施と結果分析・活用 歯と口の健康を守る指導の徹底	避難訓練・防災学習の計画的な実施状況 保護者とともに防災学習を行う。 生活リズム名人が全校の46%→50%以上。 生活リズムチェックカードの中で毎日朝食を食べる児童が90%以上 歯磨き教室の実施状況と歯磨き習慣の定着状況	●4/25地震避難訓練 6/19地震避難訓練・引き渡し訓練・防災研修(心肺蘇生・起震車体験・大雨体験・3D土石流体験)を行った。工科大学を避難場所とした訓練を実施。 ●1学期生活リズム名人51% 2学期生活リズム名人50%(+4) ●生活リズムチェックカードの中で毎日朝食を食べる児童1学期89%→2学期97.7%(+8.7) ●歯みがき教室7月14日・15日岡西香織さんを講師に招き1年・4年で実施。	・今後は地域との防災訓練などの実施を検討していきたい。また、防災備品の整備にも努めたい。 ・生活リズムチェックに取り組みせるときには、自己目標を意識させたい。 ・食育の充実に向けて栄養教諭の派遣を要望していく。 ・歯みがき教室を定例化し、歯磨きに対する意識向上につなげたい。	イ、改善されている。 ロ、避難訓練も保育園児と共に行なったことで、高学年はより成長できたと思う。全て目標を達成でき、基本的生活リズムが身につけ始めているように見受けられる。家庭と協力して食育にも早速取り組んで頂いたことは素晴らしいと思う。特に歯磨き教室の実施は評価したい。 ハ、次年度も、具体的に示された目標に向かって継続して取り組まれることを期待している。	S ・ A ・ B ・ C	